浜松南高新聞
発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

秋！南高汗と涙

ぶっ！つ！け！本！番！

盛り上がり今一歩

去る十月十一日（火曜日）、中止になった九日のうっとうしい天気が嘘のように晴れわたった秋の下、五十七年度校内体育大会が本校グランドで開催された。

開のため前日練習も出来ず、すべてがぶっつけの本番である。

三年一HRから入場行進を行い開会式に入った。学校長のあいさつの後、生徒会長のあいさつ、生徒代表による力強い選手宣誓、続いてラジオ体操が行われ、いよいよ競技に入っていった。

まずは一年生全員による高校生体操であった。全員参加になり少々緊張ぎみではあったが、元気よくそろってできたようだ。

百メートル、二百五十メートル女子、五百メートル男子の予選がつぎつぎと行われ、続いてラジェーデンリレー予選が行われた。各HRの応援に熱が入ってきたのもこのころ。

次にレクリエーション・パートIが始まり、HRの応援に笑いがあふれた。この競技は男女混合の四人組ひもの円の中に入って、四人で数々の難関を乗え、最後に二人三脚でゴールインというものであった。

また、フィールド内では男子砲丸投げ、走り幅跳び、女子ボール投げが行われ、選手の眼は真剣で、記録が続出し年徒のどよめき、なめ風が大きく校庭に響いた。

そして、二年男子による棒たおしが行われた。スタートの合図が鳴るやいなや相手の棒は倒された。何がものすごくたくましさを感じさせる競技であった。

白熱した応援合戦の繰り広げられる中で、HR対抗のリレー予選が行われた。どのクラスも選びぬかれてきた選手とあって大接戦であった。

続いて、はんが言葉いのう言葉である。こんな場合には、ほんの一部を除いて、大体は良い意味で言ってくれるのではない。評判が悪いということではないのだが、あまり特徴がない学校、馴染みが薄い学校というのが本音である。進学や就職などにおいてはそれ相応の成績を収めている我が校であるが、それだけでは印象度アップさせることは出来ないのである。最も深く印象づけるものの一つに応援活動があるが、これも一部を除いて、ほとんどが無為に近い状態である。前にも述べた学校行事のマンネリ化というのも、この原因の一つに挙げることが出来よう。学校行事というものは、どこの学校も大して差はないのであるが、必ず何か独特なものがあるものだ。本校では他の芸術がそれに当たるが、これも書から何も時間と紙を浪費するだけであろう。

本校の歴史の中で培われてきたものは、残念ながらプラスの面よりマイナスの面の方が大きいようである。だが、これらのマイナスを一掃するのには、二年あれば充分なのである。この三無主義に染まってしまっている我々では、完全に抜け出せるとは出来ないであろう。だが、これから入学してくる後輩たちのために、少なくともマイナスのものは残さないようにしたいものだ。心から願う母校にするために。

（H・Y）

LOOK！　このあふれるファイトを

論説

立つ鳥跡を濁さず

去る十月十日、我が浜松南高校の創立二十周年を祝う記念式典が催された。もちろんこの式典は今までの発展を祝い、これからもなお一層"浜松南高校"を成長させていこうとするために、一つの指標としよう。というのが目的なのであった。しかし、二十周年だからと言って、手放しに喜ぶことができるのであろうか。現状をみれば判るように、創立当初から何ひとつ変わっていないのである。変化したのは校舎などの施設だけで、生徒の生活態度や校内の雰囲気などには何の進展も見られない。今回で第六十五号を数えるこの南高新聞の紙面でも、そのことは何度となく論ぜられてきた。本紙創刊号で既に、初代校長の湯山氏がこの問題について語っている。「南高生は素直で全体的に朗らかな生徒が多いのであるが、その反面、何かおとなしすぎて、校内には無気力めいた気風が充満しているようだ。」このように、我々南高生が何事にも無関心であり、開拓者精神のようなものに欠けている欠点も、二十年の歴史を持っているのである。創立五周年特集の第二十号、十周年の第三十八号、十五周年の第五十号……など事ある毎に組まれた特集には、必ずこの"三無主義"について指摘がなされてきた。しかし、いくら呼びかけてみても、三無主義の一つ"無関心"が南高生の心中を支配していたために、その いずれもが無駄骨に終った。生徒会や学校側も、本紙以上に改善に努めてきたが、どれもとれも功を奏したものはなかった。それというのもそれらは全て理想論を口で唱えただけで、実際に行動を起こし、本腰を入れて対処した例が一つもなかったからだ、と言えよう。

さて、この三無主義は様々な弊害をもたらしているのだが、その最も顕著なものとして挙げられるのは、世間一般の評判を聞いた時に、一分経験があるなろうが、こんな時には言葉に困ってしまう。他人に自信を持って勧れることが、あまりないのであり、特徴と言われても、自問だというとそうでもしか言うことがないのである。また、「どんな学校？」と聞かれる。皆も多 ある。

近所の中学生によく「南高はどんな学校？」と聞かれる。皆も多分経験があるなろうが、こんな時には言葉に困ってしまう。他人に自信を持って勧れることが、あまりないのであり、特徴と言われても、自問だというとそうでもしか言うことがないのである。また、世間一般の評判を聞いた時に、一番多く耳にするのは"普通"という言葉である。こんな場合には、ほんの一部を除いて、大体は良い意味で言ってくれるのではない。評判が悪いということではないのだが、あまり特徴がない学校、馴染みが薄い学校というのが本音である。進学や就職などにおいてはそれ相応の成績を収めている我が校であるが、それだけでは印象度アップさせることは出来ないのである。最も深く印象づけるものの一つに応援活動があるが、これも一部を除いて、ほとんどが無為に近い状態である。前にも述べた学校行事のマンネリ化というのも、この原因の一つに挙げることが出来よう。学校行事というものは、どこの学校も大して差はないのであるが、必ず何か独特なものがあるものだ。本校では他の芸術がそれに当たるが、これも書から何も時間と紙を浪費するだけであろう。

本校の歴史の中で培われてきたものは、残念ながらプラスの面よりマイナスの面の方が大きいようである。だが、これらのマイナスを一掃するのには、二年あれば充分なのである。この三無主義に染まってしまっている我々では、完全に抜け出せるとは出来ないであろう。だが、これから入学してくる後輩たちのために、少なくともマイナスのものは残さないようにしたいものだ。心から願う母校にするために。

（H・Y）

先生の家庭訪問

忙しい日々を送る

石川先生

十月二十日、放課後、私達新聞部員四名は、静岡女子短期大学の近くにある家庭科担当の石川時代先生のお宅へお邪魔した。

途中、道がわからなくなってしまい約束の時間に遅れてしまったが、あたたかい笑顔で出迎えてもらい緊張もほぐれ、リラックスして伺うことができた。

部屋に通された時、腰掛の上にあった雑子の刺繍が鮮やか目につき、部屋中に飾られた、たくさんの人形やぬいぐるみ、クラッシックのレコードなどが印象的だったが、またそれが意外でもあった。

ぬいぐるみなどの贈り物は、家族全員が好きで、出かけた時などに、つい買ってきてしまうのだそうで、クラッシックのレコードは、「息子が好きでそろえたんだけど、まだ一度も聞かずに、眠っているだけのが多いんですよ」と言っておられた。

話が弾み、突然、昔懐かしい結婚までのいきさつは、という失礼な質問をしてしまったが、気にせず詳しく話してくださった。

先生が大学生の頃、論文を書いている時に、四親から「キュウコウアリ、スグカエル」という電報をうけとり、両親に何かあったのかと思い論文もそこそこで急いで帰ったところ、いきなり駅の近くのクリンパークでお見合いをさせられ、その時の相手が今の御主人だそうです。この日は私達がお邪魔したために家から追い出されてしまったようです。予定より長くお邪魔してしまったので、途中で帰ってこられてその時お目にかかりました。感激があり、その中にやさしさを秘めた感じの方でした。

次に先生の書斎へ通され、まず驚いたことに、いろいろな難解な本が数えきれないほど本棚にぎっしりとつまっていたのでした。そこで先生が、「本がたくさんあって、散らかっていてごめんなさいね」とおっしゃったが、それ以上に感じてはなく、きれいに整えられていた。先生のいう通り数えきれないほどの本が並べられていた。一つの難解のなかにはいかがなものかと思ったが、それで近頃、金閣の地獄太郎物という本を購入し、家庭の時間が終わったあとなどに読んでおられるそうです。その他に、料理や美術や古典文学などの本があり、まるで図書館のようだった。特に好きなのは、仏教や漢詩などで、女学校（中学一年）の頃から親しんだ」、四年（高校一年）の頃から仏教を作り始め、その尊さ、虚無感に惹かれたという有馬先生夫人の影響で始め、今では本ものの様な有馬に上達されたそうです。

最後は、仏教や読書の他、切手を集めることや、裁縫などが、とても楽しいとおっしゃっていました。

先生は小さい頃、親類が医者であったことから自分も影響され、同じ道を歩みたかったので大学にも残るつもりだったそうですが、この頃の戦争により教師になったのだそうです。

先生の部屋には、お弟子さん、とても良い書を書いておられました。最後に、「明日よりは今日一日、書いのだから。」というお言葉をいただきました。

▲受書に囲まれる石川先生

教育実習生の一言

昔と変ってないのね

九月の初旬頃に、二週間という短期間の研修をとれるために、今年も南高本卒生である、七名の教育実習生が来ていたになり、実習が行われました。

我々の先輩ということもあって、いろいろと交流を持った人も多いと思います。

では、お一人ずつ順番に紹介します。

▼山田　進　商業担当

昭和三十四年十月一八日が誕生日。現在は、大東文化大学経済学部の四回生。

高校時代は、運動のみで勉強はしなかったそうです。その運動も中途半端ですい放棄を繰ずことができなかったか……。「高校時代、これだけはやったという事を残しておきたかった。」と言っておられました。背が高く、一見真面目そうでしたが、親しみやすくとても感じのよい方でした。

▼細田悦子　国語担当

現在、名古屋大学教育学部在学中。南高の雰囲気と生徒の質も在学当時と、ほとんど変わっていないというとても感動したそうです。

実習を行っての感想は、「もっと高校生活を、元気を出せ」と言っておられた。また、「先生に対しても、友達に対しても言いたい事を言い合ってもりたい事をやって下さい。今、シラケた生活をしていると損をする。」とおっしゃっていました。

▼赤堀　孝　物理担当

生年月日は、昭和三十五年六月十日。静岡大学理学部の四回生。

高校時代のことを尋ねたところ、「勉学というよりは遊びばかりしましたんでした。但し、試験前は毎日泊まりこんでやっていました。」と話して下さいました。

▼新田晃之　国語社会担当

昭和五十六年度の四回生。

生年月日は昭和三十四年三月十八日。

高校時代のことを尋ねたところ、「勉学というよりは遊びばかりしましたんでした。但し、試験前は毎日泊まりこんでやっていました。」と話して下さいました。

▼松本すなほ　国語担当

関西大学では、中国文学を専攻しています。高校時代は今よりも明るくおとなしく、真面目だったように思うが現在のように、ちょっと天真面目さが自分で納得できる性格のように感じ、好きだとおっしゃっていました。

好きなものは音楽、読書、中国の人、中国大陸であるそうです。

運動部の活気のなさが、在学当時と変わらず、というのが残念と最後におっしゃっていました。

▼竹内乃理子　国語担当

在学当時と比べ、南高周辺の環境や生徒の雰囲気は余り変わっていないと感想を述べておられました。

「砂の芸術に一緒に参加して楽しく過ごしたのが思い出になりました。おかげで、九月半ばになってからもっかり日焼けをしてしまった。」

と明るくおっしゃっていました。

▼新田晃之　国語社会担当

昭和五十六年度の四回生。

生年月日は昭和三十四年三月十八日。

高校時代のことを尋ねたところ、「勉学というよりは遊びばかりしましたんでした。但し、試験前は毎日泊まりこんでやっていました。」と話して下さいました。

最後に関西大学は吉田先生が最後でしたがおっしゃっていました。

と、ユーモアのある言葉をかけて頂きました。また、若いうちはいろいろな事をやっておいた方がいい、というアドバイスも頂きました。

▼松本すなほ　国語担当

関西大学では、中国文学を専攻しています。高校時代は今よりも明るくおとなしく、真面目だったように思うが現在のように、ちょっと天真面目さが自分で納得できる性格のように感じ、好きだとおっしゃっていました。

好きなものは音楽、読書、中国の人、中国大陸であるそうです。

運動部の活気のなさが、在学当時と変わらず、というのが残念と最後におっしゃっていました。

▼竹内乃理子　国語担当

在学当時と比べ、南高周辺の環境や生徒の雰囲気は余り変わっていないと感想を述べておられました。

「砂の芸術に一緒に参加して楽しく過ごしたのが思い出になりました。おかげで、九月半ばになってからもっかり日焼けをしてしまった。」

と明るくおっしゃっていました。

川村先生

喜びの出産

待望の女の子

出産のためお休みをとられていた川村先生に、今度生まれになった赤子さんの事についていろいろと伺いました。

赤子さんは女の子で、名前は「志穂」、五十六年八月二十四日の午後、時四十分頃お生まれになったそうです。予定日より、一週間以上もおくれたので、とても心配されたそうですが、生まれた時は体重が三〇〇〇で身長が50㎝ぐらいの、元気な赤ちゃんなので、先生も、だんな様もさぞお喜びになったことでしょう。そのことについて、伺うとは、先生も生まれるまで、とてもハラハラしたということでした。しかし残念なことに、先生の母校である浜松西高が甲子園に出場することができたというのに、出産と重なったので、遂に応援に行くことができなかった事が、とても心残りだったとおっしゃっていました。それから、お正月に、お孫さんの志穂ちゃんが、初めて、お正月を迎えたのです。旅の疲れを癒し、ゆっくり眠るどころどころできない毎日だそうで、先生と主婦とお母さんの三役を一手に引きうけている先生の苦労が少しわかるような気がしました。

「志穂」という名前は、女優の唐沢志保さんのように、美しい女性になってほしいから、ということでつけられたそうですが、将来は、気立てのよい、美しい女性になってもらいたい、とこれだけだそうです。

上の二人の男の子は、六歳と、四歳になので、最近、まるで手がかからなくなったけれど、今度は志穂ちゃんの世話で大変だと、先生は困った顔をしながら笑って話してくれました。

これからまだまだ大変な日々が続きそうですが、体に充分気をつけて頑張って下さい。

遠州灘

▼晩秋、初冬の候、自然の姿は刻々に移り変っていきます。一乗まさに一乗と振って、自然は冬仕度に懸命です。降りそそぐ太陽をさえ大きっている冷たい風は、私達に"冬支度を"と語ってくれているのかもしれません。冬休みの準備こそ、私達にとっての冬支度といえるものではないでしょうか。▼師走の訪れとともに、皆さんの生活は一年中で一番あわただしく、一年間の思い出を後にする季節を迎えました。自然は春夏秋冬、それぞれに美しい姿を表します。皆さんは、今年一年様々な新しい思い出を作ったことと思います。しかし、思い出を作ることは簡単ですけど、それにはっきりとした区切りをつけることは、非常に難しいことです。ピアース・ハリスという人は次の様なことを言っています。

思い出は、海辺を歩いている子供のようなものである。どんなちっぽけな小石を拾い上げて大切な宝物の中にしまいこんでおくことになるのか、見当もつかない

皆さんは、思い出にきちんとした結末をつけているでしょうか？▼今、あなたは豊かな心を持っていますか？今年もあと一週間余りです。四月以来文化展に体育大会に部活に…と、持てる力をふるに出してきて、「ふーっ」と一息…なんて思っていませんか？こんな状態でいると、精神が不安定になります。そこで、今まで関心もなかったことに振り向いてみては…▼〝冬〟という言葉を聞いてあなたは何を連想しますか？寒い、木枯し、雪……いろいろな言葉が浮かんでくるでしょう。冬は冷季の中では一番自然の厳しさを教えてくれる季節ではないでしょうか。そのとき、とかく人間はその厳しさの中から逃れようとします。でもそれは不可能なことなのです。避けて通ることができないのだったら、逆に寒く厳しい冬の中に自分を放り出してみては？そして自分の体を、自分の心を鍛えてみてはどうでしょうか。▼あと一週間足らずでお正月がやって来ます。お正月で楽しみなのは「お年玉」ですね。お年玉というのは貴、家族の一人一人の霊をかなでた餅を神に捧げ、年神の霊感にふれさせてから、年神の代わりに本家の者が年始客に霊を分割して餅を与えたというのが始まりだそうです。昔はお金ではなく餅だったのです。寒い冬の中で過ごすお正月というのは、何かほのぼのとした暖かさがあるのではないでしょうか。そんな暖かさの中にいると、幼かった頃の事が思い出されませんか。▼お正月が来れば、春はあと一歩でやって来ます。長かった冬が巡り、待ちに待った暖かい春がやってきます。なぜこんなに春が待ち遠しいのでしょうか。それは冬があるからです。長く厳しい冬があるからなのです。〝苦あれば楽あり〟何事も苦しい事があるからこそ、そのあとには楽しい事がうれしい事がやって来るのです。あなたも一つの目標を達成するために、努力をしましょう。そのあとにはきっと楽しい事が訪れますよ。

正しいメガネでしあわせを…
メガネの吉田屋
広小路店　浜松駅前広小路通り　☎53-1188
浜北ビル店　浜松駅南口（浜北ビル1階）　☎54-1011
高塚店　浜松・金一丁目二二番地　☎73-1818

CLOTHING NETWORK COX
君達のライフスタイルはコックスで
★コックスでは、今秋E.C（ヨーロピアン・カジュアル）も大充実です。ちょっぴり、大人っぽく変身。
★社会訪問のキミにぴったりのスーツが数多く揃っています。是非一度見に来て下さい。
○仲間やグループでおそろいのユニフォームを作ろう。
Tシャツ・トレーナー・ヂャンパーetc.
くわしくはコックスのお店へ
本店　有楽街入口　TEL:53-7225

COFFEE
コーヒー券
●この券ご持参の方に下記の場所にてコーヒーを無料サービスいたします。
●2Fカフェシャンボール●3Fレストランシャンボール
CHAMBORD
ブレッド&ケーキ
ヨーロッパ調のレンガ造りのお店で焼きたてパンと高級洋菓子を……●1F
コーヒー券プレゼント！
●2・●3Fでどうぞ　12月27日まで有効
3F レストランシャンボール
2F カフェシャンボール
1F ブレッド&ケーキシャンボール
シャンボール
有楽街本店／浜松市鍛冶町159　☎54-7541㈹

交通公社の
受験生の宿
717軒、全国どこでも信頼のラインアップ
安心してまかせられる設備と内容です。
さあ、合格へ向けてのチェックイン
申し込みは…お電話で
日本交通公社浜松支店
☎53-2111

KOX RECORDING STUDIO
会員募集中！
バンドの練習に、レコーディングに最適のスタジオです。
〔お問合せ〕イケヤ本店2F楽器部
イケヤ
本店／浜松市田町有楽街☎(0534)52-5151
鍛冶町店／遠鉄名店ビル店／ユニー泉町店
磐田店／aiai磐田店／掛川店／藤枝店／浜北店

スポーツバック・スキー用リック・旅行鞄の御用命は
浜松駅前広小路通り
辻梅
TEL 52-6015

凧の舞う米津浜

団結心をみがく

▽……　九月廿日、一学期の最初の行事である〝砂の芸術〟が米津浜で行われた。今年は、去年文化展で行われていた凧あげも、会場を変え〝砂の芸術〟と同時に行った。曇天に悩まれ、比較的凧がうくあったようである。〝砂の芸術〟もよく協力し合ったので、どのHRも見事な出来ばえであった。また、今までとは一味違った凧あげの雰囲気に、みんな盛り上がっていた。早くも来年が楽しみである。

▽……　九月廿日、米津浜で砂の芸術が行われた。前日まで雨が続き天候が心配されたが、当日は秋晴れとなり、日焼けするほどだった。

昼食後、運動場へ整列し開会式が行われた。そしてA自スコップやシャベル、バケツなどを手に持ち米津浜へ向かった。今年は、毎年文化展で行われていた凧あげがのびのびとできるように砂の芸術と同じ会場で行われることになった。そのため華トラックで凧を運ぶ様子も見うけられた。

浜に到着すると、最初に台風の影響で打ち上げられていた流木やゴミなどを拾い清掃を始めた。各HRごとに決められた場所を清掃し、数個所に集め焼却した。

清掃が終わると、いよいよ〝砂の芸術〟の開始である。HRごとに区切られた場所に、それぞれの作品名が記されている。〝TAKEちゃんマン〟や〝ミッキーマウス〟などのキャラクターを作るHR、〝ゴニ〟や〝ぐじら〟などの動物を作るHR、中には〝電車〟や〝校章〟などもあり、様々である。

生徒会の合図で開始されると、スコップで砂を掘り返す生徒、バケツを持って海打ちきわへ走っていく生徒など、一斉に作業に取りかかった。たて二メートル、横二メートルの大きさいっぱいに作るためには協力し合わなければならない。スコップで砂を積み上げては手やシャベルを使って形をつけていく。また、バケツで海水をくんできて固める。それぞれ交代しながら、自分の分担に一生懸命だった。しかし、いつも思い通りにできるわけではない。砂を固めるために上に乗って固めていると。事ごとつぶれしまったり、できかかった部分も崩れしまったりしてなかなかうまいかない。ときには、砂が乾いてきてしまうこともある。だが、時間がたつにつれて、どのような作品ができるのか、目に見えてはっきりしてくる。ちらちらと勝りのHRをのぞいては、どんな様子か、うかがう様子も見うけられた。そして、最後に、仕上げをして、開始をまちいこすると、作品の完成である。

制作終了の合図があると、やれやれという感じで、砂で汚れた手足をはらって、他のHRの作品を鑑賞して回っていた。各自、去年とは一味違った作品の出来ばえに注目していた。生徒会では、各賞の決定のため、審査が始まった。どのHRもよくできているので、苦労しているようだった。

そして、閉会式が行われ、その後〝凧あげ〟が始まる。HRによっては、浜松祭りの雰囲気を出そうとハッピを着、盛り上げているところもあった。凧は各HRで文化展のとき展示するため制作したものである。ナイフ作業が、ものである。ナイフ作業が、

ドライブ　ルンルン　14HR

美しい環境の中

友と語った三泊四日

去る九月十七日から二十日までの三日間、南高最大行事の一つである、野外教室が、二年生四一四名によって行われた。

今年は例年と異なり、二年生全員が一ケ所〝乗鞍〟を目的地として、バスで国立青年の家へと向かった。

この野外教室のねらいは、

一、野外教室を通して、自主的規律ある生活態度を身につける。

二、乗鞍、高山市（周辺）の自然風物、史跡、人情に接して知識と経験を豊かにする。

三、自主的行動により、旅の要領、語施設、機関の理解を深めると同時に利用法を覚える。

であり、宿泊についても例年と異なって、今年は国立青年の家に二泊し、規律ある集団生活を体験することができ、二年生にとって得ることが多かったことだろう。これらのことは、これからの高校生活において、たいへんプラスになることと思う。

我が高では、私達が学校生活を送る中で、最も楽しみとしている修学旅行が行われない。他高の生徒の修学旅行の楽しかった思い出話しを聞いては、寂しい思いをしている人も多いだろう。しかし、野外教室で得たことは、修学旅行に劣るとないものであり、他高の生徒では、得ることの出来ない貴重な体験であったと思う。

研修を行う前に、班別に別れてそれぞれ班長、研修、生活、美化保健、記録と係を各自分担し、事前に研修のコースもグループごとに決めた。

第一日目、早朝、小雨がぱらついた方本格的に降り出すこともなく、くじびきの三日間に期待で胸をふくらませ、ちょっぴり興奮気味で午前七時三十分、浜松駅に集合。いつもより起床が早いため、眠そうな目をした者もチラホラみられたが、皆の顔は希望に満ちていた。バスは途中、上郷サービスエリアや金山などで休憩をとり、六時間近くかけて薄く目的地に到着した。乗鞍青年の家に着き第一に感じたことは、「寒い」だった。

三日目、天候が思わしくなく、予定されていた上高地などは、ほとんど研修できず、飛騨大鍾乳洞に向かった。大鍾乳洞は、神秘的で、見所がありとてもすばらしかった。大鍾乳洞の見学の後、高山市内のホテル、旅館へ向かった。21・22日HRは〝大丸旅館〟23・24日HRは〝ホテル飛騨〟26・27・28・29日HRは〝ひだホテル〟と別れて宿泊した。夜、小雨のぱらつく中を市内研修をした。研修というよりも、皆、家族や友達への土産物選びであった。

四日目、朝食後、高山市内のグループ研修が行われた。各グループであらかじめ決めておいたコースに従い、朝市、屋台会館、高山陣屋、日下部民芸館などを見学。中には、どこも見すごし古い町並の中を歩き思いだけ捜していた人もいたらしい。各自、市内で食事し午後一時には、高山駅前集合。浜松へと向かった。行った野外教室は、とりあえず、

行事の多かった二学期の15・18・22・24・31・34HRをちょっとのぞいてみました。

9月9日（水）22HR
浜でそうじをしている時に先生が、独りで海辺にたたずんでいたのが印象的だった。たくさんお経でも唱えていたのかなぁ？
※お経ではなくて呪文かもしれませんよ。

9月13日（月）22HR
今日こそ寝まいと思ったのに……あはは○○
※あはは……で結局どうだったんですか？

9月28日（火）31HR
今日もがんばったよ！
※えらかったね。

9月30日（木）15HR
今日の保健はもりあがった。先生が色々教えてくれて、ためになった。ああいう授業ならはりきってうけちゃう！
※そういう内容だったんですか？

10月5日（火）24HR
今日は頭が馬鹿になっている「恋は雲の上」
※それだけ判っていれば十分立派じゃないですか？

10月16日（土）24HR
今の気分はとても「幕」です
※今日、ワタシの気分はルンルンだい！

10月27日（水）24HR
体育教官室はこわいなあ。はいりたくないような気がするでも当番だからいくんだ！
※悪いことしてなきゃこわくないんじゃないですか？私なんか……やっぱりこわい……

10月27日（水）18HR
英語の時間、Y先生の顔を見ていたら〝シラガ〟が、五・六本あった。よっぽど苦労してるんだな。
※熱が苦労をかけているのでしょうネー？！　あなたは……？

11月1日（月）31HR
グスコーブドリは鳥だと思っていた。なんて名前だ。
※大きな鳥では言えませんが

11月3日（水）31HR
来年からは〝小学生だ〟ワーイ・ワーイ！
※元気ですね。どうしてはいいませんが。ねっ！

11月4日（月）31HR
今日は、マラソンをやった。マラソン大会では10キロを走らなければならない。でもマラソン大会を頑張って、その勇いで大学に合格できればよいのが
※そんなに行くはないんじゃないですか。

11月8日（水）24HR
みんながぎょうみのせいか桑水の顔がよろしい。
※そうなにぎやかでしょう。

11月17日（水）34HR
このごろ僕はよく「早く来年の春がこないかな～。特に進いなー」という言葉をよく聞く。しかし、この頃秋〝半分〟来ハ、もっぱらの時ということは僕の身近の人でも半分は来年の春が待ち遠しくなるのである。それあなた！来年の春笑ってのは、この俺……？
※ハッハッハッ……？
※ハッハッハッ。どうしてそんなに笑っていいんだ？

11月19日（月）34HR
今日は、マラソンをやった。マラソン大会では10キロを走らなければならない。でもマラソン大会を頑張って、その勇いで大学に合格できればよいのが
※そんなに行くはないんじゃないですか。

飛騨の大鍾乳洞にて

グスコーブドリの伝

―難解な舞台―

去る十一月一日の第四、五、六校時、本校体育館にて、「第十二回芸術鑑賞教室」開かれた。今回も「東京演劇アンサンブル」の劇団の皆さんによって「グスコーブドリの伝記」が演じられた。

一年生は本校での芸術鑑賞は初めて、二年生は演劇初めてのことで知らないと思うが「東京演劇アンサンブル」の皆さんは、一昨年、つまり、今の二年生が一年生の年にも、本校に来ていたことがあるのだ。そして三年生、二年前の事を思い出してもらい、一、二年生にも感想を聞いてみた。

一昨年に比べてどうだったかという質問には

「グスコーブドリ」の方が内容が難しく、「ヘレン・ケラー」の方がわかりやすかった。」

「グスコーブドリ」の方はつまらなかった。」

他の生徒もみな同じ意見で、「ヘレンケラー」の方がわかりやすかったようである。

一、二年生の感想

「星の絶に感激した。」

「『生徒諸君』という最初の言葉が良かった。」

「おもしろくなく退屈だった。」

「よくわからない話だった。」

「感動して涙が出た。」

「内容が難しくて、特別要るものがないので、観ている方が、飽きてしまう。」

その他、学校側への要望は、

「いすがほしい」

「体育館に暖房装置が欲しい」

という意見が出た。

さて、感想よりも、という感想よりも、難しくてわからなかった。」という感想の方が多かったが、劇を見るということは、情感をたのしまそうとするためではない。知的挑発を受け入れ楽しむものなのだ。

つまりただ単に「かわいそう」とか、「すばらしい」という感情をもたせるためだけが、劇ではなく、この「グスコーブドリの伝記」のように、深い感情的なものは、削ぎ落とされているが、人間の根源的な感受性がとらえられて観客の想像力を働かせて、劇に参加させるものこそ、高校生としていえよう。

ところで先ほど「生徒諸君」という最初の言葉が良かったという感想が出た。その「生徒諸君」という言葉が、私達生徒に言うだけではなく、他の大人の観客にも言うものだ。私達に言うだけでも「なぜ私強」するわけではないのに、なぜ「生徒」という言葉を使うのだろう。」ほとと思うのに、その上、大人の観客にも言うみんなでおかしいなと、私達の疑問は解きされたのかのように、この言葉はまた最後の場面でも使われているのだ。そして私たちを宇宙の話しへ誘けしてしまう。私達は「生徒諸君」と語りかけられ、ぐっと自然に舞台にひきつけられてしまう。そして宇宙の神秘になることができるのである。だから演技をする人にとって、大人の観客も「生徒諸君」なのだろう。

演技の話はこれくらいにして、最後にこの「グスコーブドリの伝記」を書いた宮沢賢治の話をしよう。宮沢賢治は、詩人であり、童話作家であり、哲学者、実践的宗教家であったが、同時に農芸化学を専攻した実践的科学者であった。科学という言葉の真の意味に対する科学者であろうとした人間なのである。一八九六年に生まれた宮沢賢治は、一九三三年に三十八歳で死したが、その賢治が第二次大戦後の現代まで生きていたら、科学について「グスコーブドリの伝記」のように考えたであろうということができる。だから、この伝記は、グスコーブドリの未来形の伝記なのである。

人工陸面に挑む
ブドリとオリザ

突然燃えた格技場

途方に暮れる柔剣道部

十月十七日午前十時五分頃、私達の学校で火事が発生しました。場所は、校舎南側にある格技場の一階柔剣道部室から出火、スレート一部、壁等の格技場五百七十六平方メートルのうち、約八十五平方メートルを焼き、火は三十分後に消えました。幸いにして、傷人は一人もいませんでした。しかし、付近に火の気が無く、格技場には鍵がかかっていなかったため、誰でも自由に入れる状態だったとのことから、同市消防本部と浜松北署は、不審火として調べています。

格技場が火事に襲われて、急いで駆けつけて来た剣道部の女子部員は「試験後に試合があるので張り切ってたのに」と、がっかりしていましたが、先輩方の闘好意により剣道員一人も参加することができました。

この火事につき、PTAから各家庭に寄付金が呼びかけられ、約七十万円ほどが集まりました。

学校側としては、予定していた火事として見るだけでなく、剣道部の被害と共に、自分達、各個人の問題としてとらえなくてはいけないと思うのです。

これから、ますます空気が乾燥し、火事の起きやすい季節になります。毎年毎年、「火には気をつけろ」といわれているのに、火事は起きてしまいます。私達はこの現実を、かけがえのない学校の財産を奪ったこの事件を通して見つめていかなければなりません。

編集後記

異常気象に振り回されて今年も残すところ僅かとなりました。今年も体育大会、初の芸術、マラソン大会など、沢山の行事がこの二学期に行われました。

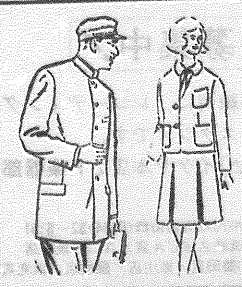
さて、今回六十頁の盛高新聞いかがでしたか。一、二年生を主体に不安と焦りを感じたかも、やっと発行する事が出来ました。

十月には、格技場の火事という思いがけない事故が起き、新聞部としては、臨時号でも来すべきところを、この紙面にスペースを割けただけに終ってしまい残念でなりません。

ところで、次号より「伝言板」という欄を新設いたします。新聞部の新聞ということでなく盛高の新聞であるという観点から、みなさんも参加していただけるスペースを、ということで「伝言板」の原稿を募集いたします。

来年は、気分も新らたに新鮮で興味深い内容を企画していきたいと思います。みなさんも、盛高に気を付けて、よい年をお迎え下さい。

十月十八日撮影



御通学には指定制服で
女子冬指定服
〃　夏スカート
〃　コート
男子制服詰エリ
生地純毛日毛カシドス地
〃　ギャバ地
御調製
大森洋服店
浜松市佐藤町　TEL ⑥3288

Nikon HOYA Rodenstock PLAYBOY Christian Dior
METZLER ZEISS MENRAD
同じメガネが県下一安い。フレームもレンズもパイオニア価格!!
パイオニアメガネ
浜松市連尺町51　☎(0534) 56-2838
(駐車場完備)

生徒募集　お帰りが便利・モダンな教室
いけばな・フラワーデザイン教室
池坊・草月流・小原流
松風流・宝心流・吉流
(入会随時・案内申込書有)
花徳
教室・東田町店2階
遠鉄浜松駅南
電話52—9086